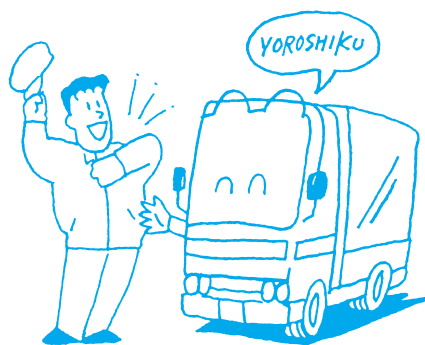


## 事故事例に学ぶ

23

### 追突事故



大型トラックが交差点で、横断歩行者のため停止した左折の乗用車に追突

#### 事故の概要

##### 発生状況

日 時：平成15年12月某日午後7時20分頃

天 候：晴れ

発生場所：横浜市内の交差点付近

##### 道路状況

片側2車線の国道が互いに交わる信号機のある交差点付近

##### 事故の当事者

運転者A（大型トラック）：43歳、男性

会社員B（普通乗用車）：32歳、女性

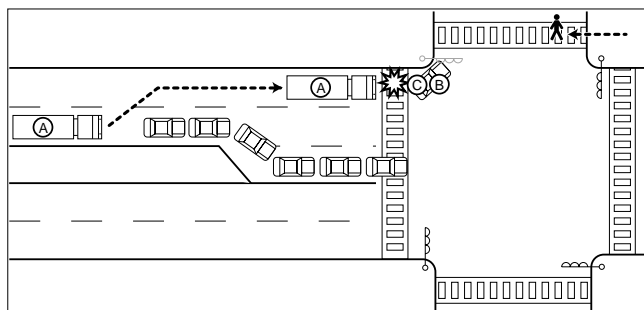
会社員C（Bの同乗者）：29歳、女性

##### 被害状況

A：車両前部左側中破

B：頸椎捻挫（全治3週間）  
車両後部大破

C：頭部・腰部打撲、頸椎捻挫等（全治2か月）



夜間にもかかわらずスピードを上げ、片側2車線道路の右側車線を走行していた。

事故現場となった交差点付近に差し掛かったところ、交差点からの右折待ち車両で右折レーンの後方まで停止状態が続き進路を妨げられたため、減速しながら左側車線に進路変更した後、前方の交差点を直進しようとした。

信号が青であったことから、進路変更後は一気に加速し、前を走行中のBに接近した状態で交差点直前に差し掛かった。

その時、Bの左折の合図は認めていたが、先の信号や交通状況が気になり、遠方を見ながら漫然と進行していたところ、左折のため減速中のBが、暗がりから横断歩道上に駆け込んできた歩行者を見て驚き急に停止したのに気付くのが遅れ、急ブレーキを掛けたが間に合わず追突した。

追突の衝撃で、Bの車両は後部が大破し後部座席に同乗していたCが重傷、運転者のBが軽傷を負った。

#### 事故の原因

Aは、普段は慎重な運転を心掛け、特に夜間はスピードを控え目に運転していた。しかし、

## 事故状況

横浜市内の運送会社に勤めるAは、大型トラックの運転歴が16年のベテラン運転者で、13年前に信号機のない交差点で出会い頭の軽微な人身事故があったものの、以来無事故の運転者であった。

事故当日は、鋼材や自動車部品等の資材を搬送中で、県外2か所の建築現場に資材の搬入を終え、最後に県内の工場に向かう途中であったが、資材の搬入や交通渋滞で予想以上に時間が掛かり、気持ちに焦りがでた状態で運転していた。

既に、到着予定時刻が過ぎ急いでいたため、

事故当時は荷物搬送の予定時間が過ぎ焦っていて気持ちにゆとりがなかったため、いつもよりスピードを上げ、車間距離も詰めて走行していた。

この道路は普段から通り慣れた道路で、当交差点付近は夜間照明が少なく暗い場所であることも熟知しており、また、前方を進行中のBが左折の合図を出していたのを認めていた状況からすれば、夜間であり、交差点が最も事故多発の場所であることを考慮し、いかに信号が青であったとしても、前車の動向に十分注意し、交差点付近の危険を予測し慎重に運転すべきであったのに、油断し安全確認を怠り漫然と進行して事故を引き起したものである。

事故の原因は、車間距離を詰め前方への注意を怠ったことにあるが、気持ちの焦りからスピードオーバーになったことも事故の大きな要因といえる。

#### 追突事故の実態

平成14年度当組合の追突事故発生状況（人身）

| 総件数 | 追突件数 | 総件数に占める割合 |
|-----|------|-----------|
| 788 | 396  | 50.3%     |

追突事故のうち「交差点」における事故は195件で、全体の49.2%を占めている。

#### 追突事故防止の安全指導

##### ① 車間距離の保持

ドライバーに焦りがあると、スピードオーバーや車間距離を詰めて走りがちになり、それが、とっさの場合に慌てたり、判断ミスや操作の遅れにつながることとなります。運転中はスピードを控えることは勿論ですが、時速60kなら60m、80kなら80mといった車間距離を確保するか、または、前の車との間に常に“3秒間”の間隔を保つようにしましょう。

##### ② 脇見運転に注意

追突事故は、多くの場合脇見運転が原因で発生しています。ほんのちょっとした脇見でも目を閉じて運転しているのと同じ状態です。

トラックドライバーの場合、携帯電話での連絡、地図や走行中の行き先確認等、脇見になる要素が多いので十分注意しましょう。

“運転中 メールひと文字 事故一生”

（平成16年 交通安全運転年間スローガン  
内閣総理大臣賞）

##### ③ 交差点通過時の注意

交差点は、「危険の巣」といっても過言ではなく、追突事故が多く発生しています。特に見通しの悪い夜間は、横断歩行者等で直前車両が急停止することが予測されるので、慎重な運転を心掛けましょう。

##### ④ 渋滞最後尾に注意

渋滞の中では、ノロノロ運転による追突事故も少なくありませんが、渋滞の最後尾で発生する追突事故は重大事故になるケースが多いので要注意です。

特に高速道路では、長距離運転の疲労や眠気等が原因で注意力が鈍り、走行車両と停止車両の誤認等により渋滞最後尾で重大事故が発生しています。

また、薄暮・早朝には色や形のコントラストが鮮明でないため、その影響で追突事故になることもあるので注意しましょう。

##### ⑤ 駐車車両等への注意

夜間照明のない場所や、見通しの悪いカーブ付近では駐車車両に注意しましょう。また、自分が駐車する場合は、路上駐車は禁物ですが、駐車可能な場所に止める場合でも、見通しを考え後続車から容易に確認でき妨害とならないようにハザードランプの点灯、停止表示板の設置等の、危険防止の措置を欠かさないようにしましょう。

##### ⑥ 降雨走行時の注意

降雨時はスリップが原因の追突事故が多発しており、特に、雨の降りはじめに事故が多いので注意が必要です。また、高速道路では、雨が比較的少なくても、わたちの水溜りにハンドルを取られバランスを崩すことがあるので気を付けましょう。

#### ゆとりのある運転

プロドライバーは、運転するとき

- ・時間に余裕を持つ
- ・スピードを控える
- ・車間距離を保つ
- ・気持ちにゆとりを持つ

ことによって、危険をつくらない、危険からはなれる“防衛運転”に徹しましょう。